

平成19年度海外研修員

岩手医科大学神経精神科 武内克也

研修先：University of Rochester, Department of Pharmacology and Physiology

私は2008年9月から2010年9月まで米国NY州 University of Rochester (以下 U of R), Department Pharmacology and Physiology に留学させていただき、同 Department の chairman である A. W. Tank 教授のご指導の下、臨床精神薬理に関する研究を行いました。留学期間中は、研究に関する私の希望を全て叶えていただき、U of R の他 Lab や他科との共同研究、動物実験や顕微鏡を用いた実験の基本手技取得、精神科臨床の見学を行うことができました。下記研究結果について米国内での学会報告を行い、現在は論文投稿の準備をしています。

臨床薬理学に関して

- ① 新規抗精神病薬による統合失調症急性期治療に関する研究
- ② Perospirone による統合失調症初期治療の有効性に関する研究。
同薬血中濃度、精神症状変化と認知機能改善から有効性を評価しました。
- ③ Olanzapine による統合失調症急性期治療の有効性、入院期間の短縮に関する研究。

精神科救急に関して

- ① 大量服薬例における有害事象に関する研究
抗精神病薬大量服薬後の有害事象について重症度判定と適切な治療選択について検討しました。
- ② 精神科救急受診例の身体症状に関する研究
受診例の身体症状を調査し、適切な薬剤選択について検討しました。

他科との共同研究

U of R は全米でも有数の血液疾患治療施設を有しており、多種の血液疾患に対する最先端の治療が行われています。造血幹細胞移植例に出現する精神症状を評価し、精神科治療薬の適切な選択に関する研究を行いました。

基礎研究に関して

Rat 副腎と脳を用い、ストレスへの脳内タンパク質反応に関して定性・定量測定を行いました。これまでの研究で示されてきたストレスモデル実験から基本的手技を学び、新たなモデルとして貧血状態における反応を研究し、さらに抗精神病薬投与への反応を調査しました。

これら研究結果を 2009、2010 Society of Neuroscience にて発表いたしました。

留学中は上記研究に加え、米国の教育システムに触れることができました。医学部入学を希望するカレッジ学生への講義、実習指導を担当し、日本とは異なる医学教育システムを学びました。また、ボランティアとして地元小学校の授業を受け持つことができ、サイ

エンスや日本の文化について話をしました。研究だけでなく教育の現場に触れることができたのは、これからの教育業務にとっても有益なものになると思います。

このような貴重な機会をいただきました日本臨床精神神経薬理学会の先生方に心から感謝いたします。今回の経験を生かしてこれからも勉強していきたいと思っています。